

日本が主導する「自由で開かれたインド太平洋」戦略では、同盟国のアメリカ、準同盟国のインド、オーストラリアとの関係が特に重視されているが、北米の雄カナダもその有力な一国だ。カナダは豪州に匹敵する軍事力を持ち、多国間外交では世界でも特別な地位を占めている。カナダの軍事・外交に詳しい関西学院大学国際学部の櫻田大造教授に「カナダの教訓」について寄稿してもらった。

寄稿 カナダの教訓



関西学院大学国際学部教授
さくらだ だいぞう
櫻田 大造

1961年、長野県生まれ。米シカゴ大・上智大卒、加トロント大
院修士・大阪大博士。第2次大戦以降の加・米を対象とした地域研究、
国際政治が専門。主な著書に『カナダ・アメリカ関係史―加米首脳談話、
1948〜2005』、『NORAD―北米航空宇宙防衛司令部』など。

「準同盟関係」にある日加

米国の陰に隠れてあまり知られていないが、日米安保体制とNATO（北大西洋条約機構）を通じて、カナダと日本も「準同盟関係」にある。

そのカナダ軍と米軍の統合度合いは深化している。北米大陸の本土決戦において航空防衛を担当する米北方軍とNORAD（北米航空宇宙防衛司令部）の司令官はアメリカ人が務め、副司令官はカナダ人となっている。そのため、たとえは2001年9月11日の同時多発テロ時に、航空防衛の指揮をとったのがカナダ人将校だった。

ファイブ・アイズの1国

米加両国間では850を超える協定・覚書などがあり、英国を含む兵士交換プログラムにより、米英内の基地にカナダ人将校が勤務することも多々ある。豪州、ニュージーランドを含む「ファイブ・アイズ」の機密情報シ

ステムにも米・英・加は参加し、同じ英語圏国家として防衛協力を深めている。

このように西側諸国の防衛に寄与しているカナダだが、日本にとって教訓的な課題もある。仏語圏のケベック州を除くと、英語話者人口が8割と圧倒的に多いために、米国に呑

み込まれることをカナダは忌避する。そのため、「軍事合理性に欠けた行動」をとってしまうのだ。

たとえば、NATO加盟国の中で、いまだにカナダのみが「ミサイル防衛(MD)」に参加していない。もしも北米主要都市に対し

豪州よりも少ない国防費

また米国と異なり、国民皆保険を持ち、充実した社会保障制度があるカナダだが、防衛装備面での問題も露呈している。人口3760万人のカナダの国防費は、GDPの1.3%程度(252億ドル)であり、人口2500万人の豪州の1.9%(259億ドル)よりも低レベルになっている。2017年に現

て、弾道ミサイルの飽和攻撃が実施された場合、米戦略軍がMDで撃ち落とすことになるが、その決定に関して、NORADの将校などは関与するもの、カナダ首相や国防相は実質蚊帳の外に置かれてしまう。

トルドー政権が発表した「国防白書」では、2026年までに国防費を7割増やして、327億カナダドル(当時のレートで約2兆6600億円)にすることを示した。しかし、この実現は極めて難しい状況に陥っている。まずはコロナ禍による経済の落ち込みと社会情勢がある。なおかつ、これまでカナダは具体的な国防白書に該当する計画を公表しても、完

「国防白書」を発表し、兵員増加などで国防整備に努めようとしたが、2008年〜09年のリーマン・ショックを受けて、多くの計画をキャンセルした。

政策と能力の乖離は回避

日本にとっても意味あるカナダの教訓は、「防衛コミットメントと能力が乖離することへの回避」にある。

カナダ空軍の66機のCF18ホーネット戦闘機も老朽化が進み、最初はF35ライトニングIIを導入することになっていたのも、野党時代のトルドー等の反対で、頓挫。その結果、豪州から中古のFA18A/Bクラシックホーネットを18機購入し、1988年運用開始のCF18ホーネットを修繕しながら、2036年まで使用予定となった。

そのうえ、カナダは日本の防衛省のように毎年、キチンと国防白書を出し、1年間の防衛政策の総括と課題を指摘することもない。上記「2017年版国防白書」も10年ぶりの発行である。

反米ではない「自主外交」

このような課題を抱えたカナダではあるが、NATOやノードから脱退して、非武装中立的政策をとるべきだとの「非現実的防衛論」は主流ではない。母国英国とのつながりから、米国より2年以上も早く第2次世界大戦には参戦。その後も朝鮮戦争や1991年の湾岸戦争には、米・英と歩調を合わせて派兵しているが、国際法上疑義があらわな2003年のイラク戦争には政治的支持を打ち出さなかった。市場経済や人権重視などの価値観は米国とも共有しているが、米国とは一味違う外交・安保政策の成果もある。

カナダを研究すると、「自主外交」というものは「反米主義」と同じでないことがわかる。むしろ米国や西側同盟国との関係強化、さらにはカナダ初の軍事衛星「サファイア」によるノードへの貢献が、自主的なカナダ外交を支えているのが現状である。



強靱・誇り・即応をモットーとするカナダ陸軍は、国際平和維持活動にも多くの兵士を参加させている。写真はヨルダン軍との共同訓練に当たるカナダ軍の女性士官(中央)＝2019年2月、中東・ヨルダンで。カナダ軍提供



①来日したカナダ海軍フリゲート「オタワ」の艦上で、共同訓練を行った海自隊員(左側)と意見を交換する加海軍艦隊部隊の隊員(2019年10月、海自横須賀基地で)＝カナダ軍提供

②カナダ空軍の主力戦闘機CF18ホーネット(カナダ空軍HPから)



防衛コミットメントと能力の乖離を回避せよ

防衛コミットメントと能力の乖離を回避せよ